

【巻頭言】 歯学界の将来と歯学協の進む道

理事長：宮崎 隆

去る6月15日に平成27年度の日本歯学系学会協議会（歯学協）総会を開催し、事業計画案と予算案を承認していただきました。現執行部の最終年度を迎えましたが、今年度も会員学会と力を合わせて事業を遂行いたしますので宜しくお願い申し上げます。

歯学系学会を束ねた組織には日本歯科医学会もあります。歯学協には日本歯科医学会加盟の学会に加えて、日本医学会の分科会、医学・医療との共通基盤を有する学会、チーム歯科医療職の専門学会、および大学の学内学会など76学会が加盟しており、歯学協は文字通り我が国の歯学系学会を網羅した協議会になっています。

歯学協の主たる事業は、会員相互の連携により歯学・歯科医療の重要性を広く社会に提言・啓発することです。特に国の特別機関である日本学術会議の活動を支援してきました。現在、我が国は超高齢社会に突入し、医療・保健・福祉制度の見直しとともに人材育成が求められています。

このような中で、歯学協はこれまで歯学・歯科医療を取り巻く喫緊の課題である社会保険（歯保連）や専門医制について検討を行い、昨年度は人材育成に関するシンポジウムを開催しました。これらの内容についてはすでにプロシーディングを発行してきましたが、さらに議論を深めて歯学協としての提言をまとめて社会に公表したいと考えています。引き続き会員学会からの積極的なご意見を宜しくお願い申し上げます。

【新監事自己紹介】

今年の6月に発足いたしました（公社）日本歯科医師会新執行部の役員交代に伴い、学術・生涯研修、国際渉外の担当常務に着任いたしました。どうかよろしく願いいたします。日本学術会議と連携した歯学系組織として、積極的な活動を進めている日本歯学系学会協議会に監事として参画させていただくことを、大変光栄に存じます。

わが国は超高齢社会に突入し、これまでの「う蝕・歯周病治療」中心の歯科医療から、歯科の疾病構造の変化に伴い歯科診療体勢の大きな変革の時期を迎えました。日本歯科医師会としては、これに対応すべく社会・国民の求める、安心安全の歯科医療を日本歯科医師会会員が提供するための体制作りを早急に進めなければならないと考えております。また、歯科医療現場では医療事故も含めたトラブルが徐々に増加していることも危惧され、生涯研修の一環として人格形成に繋がるような、教養科目の必要性も感じられます。

大学の歯学会も参加する日本歯学系学会協議会は、大学教育から基礎と臨床の学会まで包括する協議会組織でもあり、歯科医師生涯研修に関わっていただけるものと期待しております。監事という重責でございますが、任期中の職責を果たせるよう鋭意努力してまいりたいと存じます。改めましてどうかよろしく願い申し上げます。（小林慶太）



【学会紹介】 日本口腔内科学会

近年、歯学に関し、口腔と全身との関係が密接なことがより明らかになってきており、また高齢者の増加により多様な問題が生じてきている。さらに、口腔機能は、咬合・咀嚼、摂食・嚥下のみではなく、口腔・顔面の筋力の問題、神経系の問題、血流の問題および顎骨の慢性炎症の問題など課題が増加してきている。口腔外科学は充実した歴史を刻んできたが、今ここで、歯学全体で口腔を内科的に考えることが大切となってきている。口腔内科という概念は、漠然としては、以前から「口腔をトータルにまた、全身のメカニズムの中で考えよう」という概念はあったが、今なお歯学全体の中で、教育、診療、研究共に十分に行われているとは言いがたい。歯学部・歯科大学の中で、口腔内科学の講座あるいは診療科の口腔内科を設置しているのは、現在6大学であるが、それらを中心に、口腔内科のうねりを拡大していかなければならない。日本口腔内科学会は、日本口腔粘膜学会を核として2011年に名称変更した学会だが、口腔粘膜疾患は最も全身との有機的結びつきが強く、繊細に症状として現れるので、学会員全体に口腔疾患と全身疾患の関連を追及していくという気運は非常に高い。ぜひ、歯学協とも一体となつての口腔内科の発展に貢献したい。

本年1月から「一般社団法人」となった本学会は、日本歯科医学会の専門分科会あるいは認定分科会となるよう努力していく。

理事長：草間幹夫

【学会紹介】 日本歯科色彩学会

平成6年(1993年)11月に日本歯科色彩研究会として発足し、平成8年には日本歯科色彩学会となり、本年で22年が経過致しました。本学会の学会員の構成は歯科医師と歯科技工士を中心としており、学会員数は200名前後と小さな組織ではありますが、会員お一人お一人に歯科の色彩に対する熱い思いが感じられる学会であります。社会に対して歯科の色彩、審美の領域を総合的に広く、情報発信できるように産学臨の協働をモットーに切磋琢磨し、学際的研究と正しい知識と経験に基づいた技術発展、臨床展開を通じて、学際的学術団体としての存在感を高め、日本歯科色彩学会の認知度を上げるべく、会員一丸となって頑張っております。また、近年の患者さんの歯冠修復物の色に対する欲求はより複雑になっており、清潔、健康といったイメージから潜在的により白い色を望んでいるようにも思えます。このような患者さんの白い歯冠色を求める社会的背景の中、歯学を超えて色彩心理研究者とも連携し、学際的な解決方法を見出すような新たなステージに発展できるようにもしていきたいと思っております。このように本学会は歯科における色彩を科学するユニークな学会で一般の色彩学の専門家も参加する学際的な学会です。

今後とも日本歯学系学会協議会の76加入学会の1つとして会員の皆様のご理解とご協力を賜りながら、ご期待にお応えできるように努めてまいります。よろしくご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

会長：堀田正人

【学会紹介】 日本歯科人間ドック学会

歯科の人間ドック普及を目指して1998年に本学会は発足し、2012年4月からは一般社団法人へ移行した。現在、会員数は約800名で、学術大会、学会誌発行、研修会、認定医およびドックコーディネーター（歯科衛生士）の認定等を行っている。また、禁煙推進ネットワークの加盟学会としての活動、日本人間ドック学会との交流を続けている。人間ドック学会からは、現状では歯・口腔領域の検診が不十分なため、今後は歯科人間ドックを加えて名実とも全身のドックを実施したいとの要望があり、学会活動を通して実現を目指している。

現在、歯科検診を実施している歯科診療所は多いが、ほとんどがその診療所での治療に直結するう蝕、歯周病、歯並び、咬合等のチェックである。歯科人間ドックは、上記の歯疾患に加えて、口腔がんや口腔乾燥、口内炎等の口腔粘膜疾患、骨病変、唾液、顎関節および顎運動、口臭、咬合力や咬合バランス、嚥下機能など口腔全般を対象としている。口腔の状態と全身の健康の関係を検診結果から指導することも重要事項である。

今後は、病変部の早期発見だけでなく、口腔疾患の発生要因を有しているかを診断する。そのため、発生要因の除去や抑制方法の指導が予防につながり、国民の健康長寿に歯科の立場で貢献出来る。学会で作成した歯科人間ドックマニュアルを基本に、会員のドックシステムの統一を図り、その結果を社会に還元する予定である。

理事長：山根源之

【学会紹介】 日本全身咬合学会

1993年12月に石川達也前理事長（東京歯科大学元学長）を発起人として設立されました。設立以来、本学会は、咬合状態と全身の健康状態の関連性を示唆する症例の記録を残し、問題発見の糸口を辿り、理論体系や治療体系の構築に貢献することを基本姿勢に活動してまいりました。さらには、咬合が全身の健康の維持と増進に寄与することを解明するために必要とされる関連諸知識・技術の交換、会員相互および内外の学会との連携、協力等を行い、全身咬合学の進展、普及を図り、国民の健康、医療、福祉に貢献できるよう努めています。

本学会の会員は、当会の目的に賛同いただいた歯科医師をはじめ、医師、鍼灸師、歯科衛生士、柔道整復師、カイロプラクター等の多くの職種の方々から構成されています。この会員構成には、本学会の名称と併せて極めて学際的である本学会の特徴が表れています。さらに、本学会には、姿勢部会、聴力部会、頭痛部会、統合医療部会の4専門部会が設置され、これらの専門部会がそれぞれの視点から、咬合状態と全身の健康状態に関する多くのユニークな研究成果を発信しています。

当学会は、今後も歯学の各分野は勿論、医学や工学、心理学など他領域の研究者とも協働し、全身咬合学のすそ野を広げ、その発展に邁進する所存です。皆様方のお力添えをいただけますようお願い申し上げます。

総務担当理事：坪井明人

【学会紹介】 日本成人矯正歯科学会

従来、矯正歯科というと子供の矯正が主体と考えられてきました。しかし、人生80年時代を迎え殆どの方が人生の3/4を成人として過ごすことになり、矯正歯科の分野でも成人に対する矯正治療の要望が急激に増加してきました。しかしながら成人矯正については一般の矯正とは異なった特徴や経過を見る場合が多く、その治療には高度な学識と臨床技術、並びに隣接矯正学ともいべき他の分野の先生方との連携も必要となります。

このような観点から1993年に「歯科矯正学の進歩、発展を図り、特に成人の矯正歯科治療に関する学術の向上及びその啓蒙、普及を図る活動を行い、歯科矯正学の発展と国民の健康の増進に寄与することを目的とする」日本成人矯正歯科学会が設立されました。

学会設立以降の主な活動

- 1993年6月27日 設立総会 第1回学術大会
- 1994年 日本成人矯正歯科学会雑誌創刊（第5巻から年2回）
- 1996年 日本学術会議登録学術研究団体に認定 文部科学省 学会番号 10863
- 1998年 学会セミナー（年1回あるいは2回開催）
- 2001年 認定医制度
- 2002年 本学会第10回記念大会、第1回国際大会
- 2004年 認定矯正歯科衛生士認定制度
- 2005年 特定非営利活動法人 日本成人矯正歯科学会の設立登記
- 2006年 専門医制度（指導医制度、認定研修施設）
- 2007年 歯並びコーディネーター研修会
- 2012年 本学会第20回記念大会、第2回国際大会
- 2012年 認定医研修プログラム（2年間、40日）
- 2014年 モンゴル矯正歯科医会と学術交流協定に調印

理事長：武内 豊

【学会紹介】 日本咀嚼学会

本学会は、咀嚼システムと全身機能との関連を明らかにし、健康科学の発展を目指す国内外の関連機関と連携しながら、学際的学術交流を深め、国民の保健、医療、福祉の向上に貢献することを目的として活動しております。平成2年に発足して以来、歯学関係の研究者だけでなく、食品、栄養、教育、工学といった広い学問領域の研究者が集い、議論し、広く一般市民へ発信する学会となっております。その活動としては、学術大会の開催（本年度は9月26日（土）、27日（日）、鶴見大学会館での開催）、学会誌やニュースレターの発行、「咀嚼と健康」ファミリーフォーラムの開催（本年度は10月27日（火）有楽町朝日ホールにて開催予定）、そして健康咀嚼指導士を養成・認定・支援する事業を実施しています。

近年口腔機能すなわち栄養摂取と健康長寿の関係が話題となっております。口腔管理に対する自己関心度が低下し、う蝕・歯周病が進行して残存歯が減少し、口腔機能の軽度低下に伴う食習慣悪化の徴候が現れ、低栄養状態に至ります。咀嚼は最も重要な口腔機能であり、健全な栄養摂取に大きくかかわるところであります。わたくしどもはそれを強く意識し、健康長寿社会の実現のために活動を続けたいと考えておりますので、よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

理事長：水口俊介

事務局：(一財)口腔保健協会内
〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル
電話：03(3947)8891
E-mail: gakkai18@kokuhoken.or.jp
URL:<http://www.ucjds.jp/>